

南無阿弥陀仏は
私のいのち



平成 27 年
2 月号

NO.
445

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobiiro.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 内山昌一氏)

幸せという言葉聞いて、どういうことを思うだろうか。金銭、家庭、仕事などがあるだろう。最近では幸福度という数値で表し、順位まで付けている。私たちが日々望んでいる幸せとは何であろうか。

もともと「幸せ」とは行為を合わせる、「仕合わせる」ということが語源らしい。それは巡り合わせという意味で、仕合わせが良い、仕合わせ悪いと使われていた言葉であった。それが「しあわせ」のみで幸運な事態、更に事態から気持ちの面に意味が移り、幸福という意味になっていったそうである。

思い返せば、様々な巡り合わせの中で育てられてきた。その巡り合わせを個人の善悪で捉え、一喜一憂の堂々巡りをしてきているようにも思う。

実は不都合な巡り合わせも私という存在を成り立たしめていた。

日々移り変わる中で、不安のない、満ち足りた幸せを求めずにはいられないが、「あの時は幸せだった」や、「こうなったら幸せ」ということでなく、誰とも代わることのない私が、様々な願いに支えられて今、このようにしているということが、最も尊いことなのだと教えられているのではないだろうか。

(仲井 真裕 記)

婦人会 新年会

1月11日、11時より会員41名の参加をもって西徳寺婦人会新年会が開催されました。

本堂にて勤行の後、太田愛子会長より「聞法させて頂くからこそ、生かされている喜びを教えて頂く。今年も自分自身を学んで参りましょう」とご挨拶を頂きました。引き続き岸本住職からは、聞法してどうなるかということよりも、聞法をさせて頂く出発点を問うことが肝要ではないかという課題を頂きました。そして最後に恩徳讃を皆で唱和し閉会となりました。



その後場所を梅檀の間に移し懇親会となりました。今年も恒例のビンゴゲームで盛り上がり、最後に「どこかで春が」を合唱しお開きとなりました。毎年ながらこの場を大切にしてくださる方々が居られることに嬉しさを感じました。

(山崎 哲 記)



前略 御免下さいませ。過日は永代経の御案内を頂き、ありがとうございました。

祥月命日には久し振りにお伺いする筈の処、私は何時の間にかやら91歳となりまして、この不順な気候に体がついてゆかず、頂いたいのちをもう少し大切に、次回のチャンスにと今回はあきらめました。お許し下さいませ。

(中野区 阿部 典子 様)

読者の声

前略 いつもお世話になっています

「いせ辰」数物有難う御座居ます。6月号・10月号の原稿の御礼とか、穴があったら入りたい気持です。お陰様にて弟も退院し、普通の生活に戻って居ります。来春から北陸新幹線の開通もあり、上野へは近くなってきますので、楽しみにしています。私も白内障の手術を終え、これからは心の目で物を見なくてはと自分に言い聞かせて居ります。前任職さんが三条の出と聞きまして、懐かしく思っています。

(上越市 横山 淑子 様)

前省 大変永い間ご無沙汰を致し、誠に申し訳ございませんでした。私も4年程前にガンの手術を致し、長期間の入院療養をしておりました。幸いにも手術の術後の状況も良く、1年程で退院を致しましたが、永い間の入院生活の為、体力が弱り、駅で転んで骨折を致しました。打ちどころが悪く、また骨折の手術の為入院をしなくてはなりませんでしたが、経過も良く退院ができました。本年2月体調が思わしくなく、検査の結果、ガンの再発が判り再入院をすることになりました。10月には退院が出来、お寺さんの方にご連絡を致しましたが、その後家に帰っても微熱が連日あり、検査の結果、また再入院をしてしまった次第です。

いろいろご迷惑をおかけ致しまして、申し訳ありません。現在治療の為、下記の所にマンションを借りた次第です。しばらくは(長期間の予定)こちらの生活になると思っていますので、よろしく願い申し上げます。

(千葉市 湯浅 順一 様)

「ただ一向に念仏すべし」という、法然上人のお勧めは、疑えば迷いに止まり、信ずれば涅槃に入るといふ。「生死の家には疑をもつて所止となし、涅槃の城には信をもつて能入となす」(「選択本願念仏集」)一点にあります。しかし、ここでいう信は、自分の思い込みで、親や子・連れ合いや親友を信じる信や、「鯛の頭も信心から」という依頼心の信ではありません。自分の都合から発想する信は、裏切られたり当てが外れば、必ず極端な不信に陥ります。しかし、不信になるのは、「宝くじ 外れて神を またも変え」というように、信じる相手が問題であって、自分の信の内容に間違いがあるとは、容易に気づきません。だから、いつまでも、信と不信と半信半疑(疑い)を繰り返していきます。

お念仏も、自分の思惑の中で信じようとすると、称え心や回数にこだわって、お念仏が阿弥陀仏の願いからの呼びかけであることに、目覚めません。呼びかけに気づかないのは、阿弥陀仏の願いを疑うことです。それで「生死輪転の家に還来することは、決するに疑情を以て所止と為」といわれます。



「生死輪転の家に還来」とは、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人の六道を、今だけ自分だけじゃなく、行きつ戻りつしながら、ぐるぐる回る迷いから脱出できない状態をいいます。そして、迷いを

正信偈の話 ④2 松井憲一

還来生死輪転家 決以疑情為所止 速入寂靜無為樂 必以信心為能入

(生死輪転の家に還来することは、決するに疑情を以て所止と為。速やかに寂靜無為の樂に入することは、必ず信心を以て能入と為。)

それは、親鸞聖人が、吉水の草庵の対面で、信と不信の繰り返しは、自分の力で抜け出せると思う根強い執着心にあると教えられ、それが阿弥陀仏の本願への「疑」であつたと、生死輪転の我が身を深く

頷かれたからであります。だから、聖人は、「真の知識(法然上人)にあうことは、かたきがなく、かたきなしの流転輪廻のきわなきは、疑情のさわりなく、疑いぞなき(「高僧和讚」)と、疑いの気づきにめぐりあうことのできた感銘を和讃され、「真の知識」の左仮名には「ミダノホンガ」ンヲ、オシウルチシキ」と、確かめられます。

こうして信と不信との往復が、自分の信心の全体であつたと気づかせ断念させるのが、阿弥陀仏の本願のはたらきなのです。自分の

信心は疑(本願を疑い、本願に背くこと)でしかなかったと、頑なな自我の思いが照らされ、頭が下がるのがまことの信心です。それで、「速やかに寂靜無為の樂に入することは、必ず信心を以て能入と為」といわれます。「寂靜無為の樂」とは、自我のこだわりが徹底して照破された世界で、「寂靜」であり「無為」であるといわれ、「涅槃」と同じ意味をもちます。聖人は、この「樂」を「みやこ」と読まれます。それは、お念仏する信心、一念一念の阿弥陀仏の本願に順う信心において、流転の家が「樂(みやこ)」に転じられることを、喜ばれたのでしよう。聖人は、本願に順う信心の「寂靜無為の樂」への能入のお示しを、「諸仏方便ときいたり 源空ひじりとしめしつつ 無上の信心おしえてぞ 涅槃のかどをばひらきける(「高僧和讚」)」と和讃されます。すなわち、阿弥陀仏が、方便してわれらを救うために時節到来し、法然上人と示現して、疑いの懺悔において信心の身となること、寂靜無為の涅槃への速やかな入門であると、そのご教示を讃えられました。

山門の言葉



けいこ せみ
蟪蛄(蟬)

しゅんじゅう し
春秋を識らず



中国の莊子の言葉。蟬は土から出て、夏の短い間全力で鳴ききりその生涯を閉じていく。春や秋や冬を知る由もなく、夏しか知らないという当たり前の言葉である。

ところが曇鸞大師は「伊虫、豈に朱陽之節を知らんや」という言葉を加えられた。蟬が春秋を識らないということは夏だということも知らないということだそう。

なるほど蟬は春夏秋冬、季節そのものを知り得ない存在ということである。

かつて北海道に住んでいたことがある。冬にはマイナス三〇度にもなり、ゴールデンウィークに雪が降ることもある地である。今や東京暮らしが二〇年になり、今更戻れないと正直思う。

当然、冬が厳しい程に夏が貴重になつてくる。短かいほどに待ち焦がれ、また終わりを惜しむ。「早く涼しくなつてほしい」と感じてばかりいる東京の夏と、北海道で経験した夏は全く違う印象なのである。

夏がいかなる夏か。それは春秋冬

と深い関係がある。その味わいなくして夏を語ることは出来ないのではないだろうか。

ところが自分の経験や知識など、手に入れたものだけですぐに物事を判断つけたがるのが私たちであると教えられる。「夏も知らない」という曇鸞大師の言葉は非常に重いと感ずる。つまり自分の経験を握りしめて、知らず識らずもの知り顔に物事を決めつけていやしないだろうか。

実は何を知らないのかも分からない程に、知ったつもりになつているのが私たちの本当の闇。厄介なのは答えを握りしめたその手を開くことが自身の努力では出来ないということである。だからこそ聴聞は無知を知り恥を知るといふ大きな目覚めの生活である。

蟬は夏を知らない……。しかしひたすらに鳴く姿がむしろ夏を現す。ひたすらに聴聞された方々が現して下さつてゐるものは何か、そこが聞き所ではなからうか。

(山崎哲記)

日誌

- 12月13日 同行会「現代の聖典」に聞く
法話 岸本住職
- 12月17日 婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く
- 12月20日 定例聞法会
評議員会定例役員会
混声合唱団「エコー」練習
- 12月27日・28日 宗祖忌
- 12月31日 歳暮法要
- 1月1日 修正会(参加者約30名)

- 1月7日・8日 中興忌
- 1月10日 混声合唱団「エコー」練習・新年会
- 1月11日 婦人会新年会(参加者44名)

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

- 中野区 阿部 典子 様
- 新潟県 横山 淑子 様
- 柏市 山本 英男 様

久しぶりで、野鳥の会の家より35分の自然観察公園での探鳥会に行きました。当日56名出席し、午前中3時間歩き廻り野鳥36種位観察（二人が見れば記録）、枝や茂みに隠れ中々見つかりません。普段歩かないので腰が痛く疲れました。

家内のリュウマチは寒いと肩や手首、膝が痛くなり時に発熱しますが、38度になると動けなくなるが、近頃減多にありません。寝ていると楽だと、よく寝ています。最近食が細り心配ですが、気楽に生活しています。

あさ日さす 窓辺に鳴くや鳥の声
すがた見まがう 梢の枯れ葉
(上尾市 塚本 孝太郎 様)

大地によってこのいのちが生まれ、育まれ、そして引き受けられていく事実をまのあたりに知らされた。昨年の暮れ、ドキュメンタリー映画「カンタ・テイモール」に出遇った。27年にも及ぶ残虐な殺害が繰り返されても抵抗をせず、02年遂に東ティモールの独立が成し遂げられた。

現地に住む青年が歌う歌詞の中に「ねえ、大人たち、僕たちの過ちを大地は知っているよ」と言う一説が紹介されていた。決して裕福でもなく、先進国とは程遠い生活にあっても、子供や大人の生き生きとまぶしく輝いている姿は脳裏を離れない。
(滋賀県 草津市 鎌田 顕道 様)

私も一人暮らしになりましたが、元気に新年を迎えることができました。これも皆様方のおかげと、他事ながらお伝え出来ます事を感謝しております。

(台東区 明城 與一 様)

痛ましい出来事が多い中で、こんな話が。殺処分される犬が処分寸前に救助犬候補に認められ、訓練のうえ災害地で泥まみれになって捜索にあたったそうです。なんだかじんわりとききます。

(滋賀県 近江市 蓮光寺 三津 孝昭 様)

皆様お元気で佳い年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

老化した身にはお参りもままなりません、「えこお」をはじめ、お便りを読ませていただいております。

(品川区 木原 麗子 様)

年始に届いた声

(文章の一部を
抜粋させていただきました)

年末に葛飾の東京理科大キャンパスで、ベートーベンの第9を久しぶりに歌い、感銘を受けました。

今年は20年ぶりに、ヘンドルのメサイヤに挑戦してみようかと考えています♪ (^o^)/
(葛飾区 竹内 乾一郎 様)

昔、英語の授業で教わった用語「過去完了」を思い出しては、苦笑する7回目の年男です(未)。本当にお陰様です。

(横浜市 鈴木 喜一郎 様)

日頃お世話になり、ありがとうございます。体の障害の関係で飲食会は参加できませんが、できるだけお寺には足を運びたいと思います。

(府中市 関口 哲也 様)

昨年は数箇所の温泉巡りの旅をし、音楽療法では色々な方との出会い、悲しい別れから多くのことを学ばせて頂きました。そしてIHLヘルスクアリーダーシップ研究会に入会し、新たな関わりの中で自分探しも始めました。このようにバッカバッカとゆっくりと邁進する予定が、競馬の馬のように走り回り瞬時に年末。

音楽家の巨匠バーンスタインが生前語っていた言葉「神が与えてくださった残された時間をどう生きるか・・・」。自分の命の限りはわかりませんが、「残された時間」に意識を傾け、じっくりとこれからの人生「幸せと感ぜられる瞬間」、それが音楽療法なのかはわかりませんが、今後について思いを馳せて 2015 年は羊が草を食むように・・・過ごせたらと思います。

(品川区 市田 幸子 様)

平素のご無沙汰を謝し、近況報告申し上げます。カルチャーセンターの仏教講座と浅草竜泉のお寺さんの聞法会で浄土真宗のみおしえを教えて頂いております。また市の健康体操教室などを楽しんでます。

昨年、図書館で新しい分野の本に出会いました。いずれも25年以上前に出版され、版を重ねているもの、

- * アルフォンス・デーケン「死とどう向き合うか」
- * 日野原重明「老いと死の受容」

25年前、私が直腸がんの手術をうけた頃には思い及ばない視点(無頓着)でした。数年来の親の介護を終えて、さあ自分はこれからどうするとうきに出会いました。避けられない死だからこそ今を大切に生きる、仏教でも同じことを教えられています。幸い今体調は順調です・・・。

(千葉市 長尾 将男 様)

掲示板

平成27年2月

- 2日(月) 午後5時 東京教区新年会
4日(水) 午後1時 婦人会・東京教区坊守研修会
法話 松井 憲一師
7日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
8日(日) 午後2時 城東ブロック会間法会(市川八幡神社)
12日(木) 午後3時 総代会
14日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く
法話 山崎 哲
18日(水) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く(第11回)
21日(土) 午後1時 定例間法会
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
22日(日) 午後2時 城南ブロック会間法会(馬込 ホテル東京イン)
24日(火) 午後7時 仏教青年会座談会
28日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く
法話 木村主任

仏具磨きのお誘い

春の永代経法要をお勤めするにあたって、本堂の荘厳や会館等の仏具磨き、境内の清掃など、ご門徒の皆様と共に行いたいと思います。

この度も本山から差向布教のご縁をいただきます。皆様と協力して、綺麗なお荘厳で迎えたいと思います。

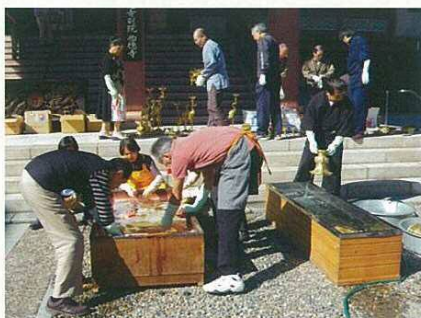
当日は昼食のご用意も致します。ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

期日：平成27年3月4日(水) 午前10時から(雨天順延)

場所：西徳寺境内

参加いただける方は

2月28日(土)までに
寺務所へご連絡ください。
(電話 03 - 3875 - 3351)




編集後記

2月を代表する花に福寿草があります。旧暦のお正月頃に咲き出すことから「元日草」や「朔日草」とも呼ばれ、どの花よりも早く顔をだし、春の訪れを知らせてくれる早春の花だといわれています。

まだまだ寒い日が続きますが、いのちの世界はもうそこまで近づいてきている、春の訪れをしっかりと感じているようです。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

 saitokuji@ce.wakwak.com

修正会報告

元日の朝 6 時より本堂にて修正会が勤まりました。今年も多くの参詣者が来寺され、ご一緒に『正信偈』をお勤めしました。

その後会館に場所を移し、ビンゴゲームで豪華賞品(?)をゲットしたり、お雑煮やお酒を頂きながら沢山の方々とお話しすることができ、有意義な時間を過ごせました。又、小さなお子様は住職からお年玉を貰い、無邪気な笑顔を見せていたことが印象的でした。

今年も皆様と共に、笑顔で始まる新年を迎えられたことを嬉しく思っております。

(大橋 伊知郎 記)

春季永代経法要 混声合唱団「エコー」演奏会

日時：平成27年3月22日(日)
11時30～12時

会場：西徳寺 本堂
指揮・独唱：横山慎吾
ピアノ：金澤麻里子

演奏曲目

- 1、真宗宗歌
- 2、三帰依
- 3、みほとけは
- 4、森へ行きましょう(ポーランド民謡)
- 5、峠の我が家(アメリカ民謡)
- 6、ともしび(ロシア民謡)
- 7、星かげさやかに(フランス民謡)
- 8、独唱・マリウ愛の言葉を(イタリア歌曲)
- 9、独唱・音楽に寄せて(ドイツ歌曲)
- 10、蛍の光(スコットランド民謡)
- 11、恩徳讃

当合唱団はご門徒さんだけでなく沢山の方々から成り立っております。先生のご指導のもと、発声練習や個人レッスンなどを楽しく練習しています。常時、団員を募集しています。

今回は仏教歌の他に、世界の民謡を中心に歌いたいと思います。ぜひお越しください。